

はじめに>近年、ハウスダストアレルギーが原因とされるぜんそくやアトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患が増多の一途をたどり、しかも低年齢化や重症化が問題視されている。にもかかわらず、花粉症に代表される「アレルギー性鼻炎」の治療は、現在までいわゆる「対症療法」しかなく、長らく根本的な治療法の開発が望まれてきた。一昨年より、「アレルゲン免疫療法」と呼ばれる、アレルギー性鼻炎の根本治療が日本でも可能となったので、「アレルゲン免疫療法」の特徴とこれまでの治療法との比較などを講演した。

現状>厚生労働省の推定では、全国民の20-25%が何らかのアレルギー疾患を有し、特に生産年齢に限定すれば約30%が「アレルギー性鼻炎」を罹患しているとされている。花粉症患者のうち、約30%は特に服薬をせず、約40%は市販薬の内服で症状を抑え、残りの約30%が医療機関から投薬を受けていると推定されている。医療経済的な側面から考えても、非常に大きな医療費が国全体として「アレルギー性鼻炎」に費やされており、「対症療法」のみならず、「根本治療」の開発が国を挙げての急務である。

新規治療法>「アレルゲン免疫療法」や「舌下免疫療法」と呼ばれる治療が、一昨年から日本でも開始された。いまだに正確なメカニズムは解明されていないものの、乱暴な表現が許されるならば、「アレルギーの原因物質を少量長期にわたって継続的に摂取することで、アレルギー反応が起こりにくくなる治療法」と考えられている。欧州を中心に諸外国では長い歴史を有する治療法であり、その有効性や副作用の少なさはすでに証明されていたが、日本では皮下注射による免疫療法しか認められてこなかった。一昨年からは、「毎日決まった量の薬剤を口に含んで、飲み下す」治療が可能となり、自宅で簡便に治療が行えるようになった。当院でもこの一年半で数名の患者さんにこの「アレルゲン免疫療法」を施行したが、副作用はなく、個人差はあるものの全例で症状の自覚的な改善を認めている。

今後の展望>治療初期に重篤な副作用が出現することが、まれではあるが可能性があるため、治療の導入には慎重であるべきと考えるが、これまで花粉症で苦しんできた方々には、素晴らしい福音となると考える。